

《担当者名》○常田美和[tsuneta@hoku-iryo-u.ac.jp]
 三国久美[mikuni@hoku-iryo-u.ac.jp]

【概要】

周産期の中でも主に出産までの母子の援助について理解を深め、援助方法を探究する。とくに出産を正常に保つために必要な女性の健康状態に関するアセスメントと援助方法について、過去の研究論文を批判的に吟味し、評価する能力を修得する。

【学修目標】

- 1) 出産を正常に保つためのアセスメントと援助方法を理解できる。
- 2) 周産期の女性の健康状態のアセスメントと援助方法を理解できる。

【学修内容】

| 回 | テーマ | 授業内容および学修課題 | 担当者 |
|---------------|------------------------|--|----------|
| 1) 2 | 実践の根拠を読み解く方法 | 周産期母子への援助とEBP | 常田 三国 |
| 3) 4 | 出産を正常に保つためのアセスメントと援助方法 | 「正常」な経膈分娩とは | 常田 |
| 5) 6 | 出産を正常に保つためのアセスメントと援助方法 | 分娩開始の診断 分娩進行状態のアセスメント | 常田 |
| 7) 8 | 出産を正常に保つためのアセスメントと援助方法 | 胎児の健康状態のアセスメント 分娩中の活動と体位 | 常田 |
| 9) 10 | 出産を正常に保つためのアセスメントと援助方法 | サポートイブ・ケア | 常田 |
| 11) 12 | 出産を正常に保つためのアセスメントと援助方法 | 代替補完療法 | 常田 |
| 13) 15 | 異常分娩の診断と介入の根拠 | 遷延分娩とは 遷延分娩の原因と医療介入の根拠 遷延分娩を予防するための援助とその根拠 | 常田 |

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

ディスカッションへの参加（30%）、プレゼンテーション（30%）、課題レポート（40%）により総合的に評価する。

【教科書】

なし。適宜資料を配布する。

【参考書】

随時提示する。

【学修の準備】

第3回以降の学習テーマに関して文献検索を行い、文献をクリティークしておくこと。